

FLORA of KOCHI

No. 50

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

探してみよう！ 秋編

ヒメキカシグサ (ミソハギ科)

Rotala elatinomorpha Makino

ヒメキカシグサはミソハギ科キカシグサ属の一年生草本です。牧野富太郎博士が1910年に新種記載した植物で、原記載には日高村岩目地（龍石神社前の水田）で採集した標本があげられています。1941年に山脇哲臣氏が高知市鴨部で採集した標本が、確認されている最後の標本です。そのほか、1919年に高知市小高坂の採集者不明の標本もあり、これらの標本は、すべて10月に採集されています。

写真1から4を見てわかるとおり、細かい形態的な特徴に注意を払う前に、植物体の大きさが異なります

ので、まずはそれを手がかりにして、キカシグサ属の植物を見つけることから始めましょう。

高知県に分布するキカシグサ属の植物はすべて一年生草本です。一年のうちに発芽から開花結実までおこなう一年生草本は、生き延びるために多様な発芽特性をもつ種子をつくることがあります。農薬散布や耕作放棄に負けず、どこかにまだ種子が眠っているかもしれません。命をつないでいることに望みをかけて、「絶滅」とあきらめず、今年の秋は低地の水田や水辺をぜひ探索してみてください。



↑ 写真2 キカシグサ
← 写真1 ミズキカシグサ



写真3 ヒメキカシグサ



写真4 ミズマツバ



写真5 ヒメキカシグサの葉縁 写真6 キカシグサの葉縁

表 キカシグサ属の検索

特徴 (検索キー)		開花期	学名・和名	備考
葉は対生する	多年草。花は頂生の穂状花序になる	5	<i>Rotala rotundifolia</i> ホザキキカシグサ	国内では九州以南に分布
	一年草。花は腋生	8-11	<i>R. rosea</i> ミズキカシグサ	高知県 RDB2022:NT
	茎は直立。葉は線形～被針形、長さ6-25mm、鈍頭～鋭頭	8-11	<i>R. indica</i> キカシグサ	
	葉縁は透明で軟骨質。花柱は0.6mm。おしべは4個	9-10	<i>R. elatinomorpha</i> Makino ヒメキカシグサ	高知県 RDB2022:EX
葉は輪生する	一年草。葉は3～4輪生。がく裂片は(4-)5個。花弁はない。おしべは2-3個	8-10	<i>R. mexicana</i> ミズマツバ	高知県 RDB2022:NT
	多年草。葉は5～12輪生。がく裂片、花弁、おしべはそれぞれ4個	9-10	<i>R. hippuris</i> Makino ミズスギナ	四国に分布するが、高知県では未発見

【参考文献】

小林史郎. 2009. キカシグサ属. In: 高知県・高知県牧野記念財団 (編). 高知県植物誌 pp. 342-343. 高知県・高知県牧野記念財団. 高知県.
米倉浩司. 2016. キカシグサ属. In: 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (編). 改訂新版日本の野生植物 3:259-260. 平凡社. 東京.
Makino, T. 1910. Observation on the Flora of Japan, Bot. Mag. (Tokyo) 24:99-106.



高知県の植物 ニュース

■ 標本がもたらした新発見：セトヤナギスブタ

文・写真※：山ノ内 崇志

標本庫には多くの人たちの努力によって日々新たな標本が集積されています。標本コレクションは自然そのものではありませんが、そこから得られた「実物」であり、自然を知るための「問い」と「答え」に最も近いものの一つです。また、似た種類を一堂に並べて比べたり、最新の知識で過去を振りかえったりするのは野外では難しく、標本庫だからこそ可能な研究方法です。

今回、そうした標本庫での調査の結果、トチカガミ科スブタ属のセトヤナギスブタ *Blyxa alternifolia* (Miq.) Hartog と思われる標本が見つかりました(写真 1-1)。スブタ属は水田などの浅い水中に生える沈水性の一年草で、3～10 cm ほどの細長い葉を密につけ、小さな花と細長い果実をつけます。茎の伸長ぐあいや、種子の形態が分類の鍵になっています(写真 1-2)。今回確認された標本は、ヤナギスブタに比べると茎が短く大型で、ぱっと見はスブタに似ているものでした。種子は完熟しておらずつぶれていますが、スブタともヤナギスブタとも形が異なります。



写真 1-1 セトヤナギスブタと思われる標本
四万十市、三原村、大月町から計 3 点の標本が確認された。

セトヤナギスブタは、日本では中部地方以西から見つかっている全国的に稀な植物です。四国では愛媛県の南予地方に知られていましたが、高知県からの報告はありませんでした。高知でもどこかにあるかと思っていただところ、すでに採集されていたのは、まさに調査した皆さんの努力の賜物です。ただし、今回確認できた 8～9 月に採集された標本は、いずれも種子が未熟でした。もう少し調査を重ねることで、よりはっきりしたことがわかるだろうと期待します。

【参考文献】

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑. 179pp. 文一総合出版, 東京.
愛媛県レッドデータブック改訂委員会. 2014. 愛媛県レッドデータブック 2014 愛媛県の絶滅のおそれのある野生動物. 623pp. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 愛媛県.

※写真 1-1 の標本の写真を除く。

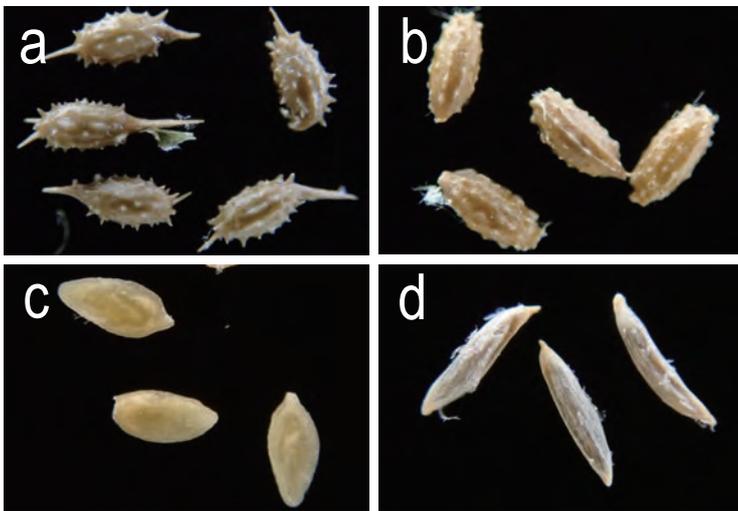


写真 1-2 高知県産のスブタ属の種子

a スブタ, b マルミスブタ, c セトヤナギスブタ, d ヤナギスブタ。セトヤナギスブタは種子表面に低い突起があるとされるが、未熟で圧扁されているためこの標本では不明瞭である。縮尺不同。

■ 高知県新産のゴハリマツモ (ヨツバリキンギョモ)

文・写真：山ノ内 崇志

マツモ科はマツモ属のみからなる根をもたない沈水植物のグループで、世界に 3-4 種あるいは 12 種ほどがあるとされています。果実の形態や葉の分岐様式で分類されていますが、果実が観察されることは少なく、正確に同定できる資料はなかなか得られません。

日本からは、果実に刺が 3 本あるマツモ *Ceratophyllum demersum* L. と、刺が 5 本あり、マツモの変種ともされる

ことがあるゴハリマツモ *C. platyacanthum* Cham. subsp. *oryzetorum* (Kom.) Les が知られていますが、やはり果実がないと同定困難です。そのため、しばしば果実が確認されないまま、なんとなく「マツモ」として扱われています。

高知県でも、これまで雄花は観察されていたものの、果実が観察されたという報告や標本はありませんでした。



写真 2-1 5本の針がついた果実

【引用・参考文献】

Wilmot-Deary, M. 1985. *Ceratophyllum* Revised: A Study in Fruit and Leaf Variation. *Kew Bull.* 40(2): 243-271.

小林史郎. 2009. マツモ属. In: 高知県・高知県牧野記念財団 (編). 高知県植物誌 pp. 342-343. 高知県・高知県牧野記念財団. 高知県.

高知県植物誌でもマツモとゴハリマツモを区別していないとの注意書きが述べられています (ただし、ゴハリマツモをマツモの変種としている)。

この度はじめて、高知県でも果実のついたマツモ属植物が見つかり、果実に5本の刺が確認できたことからゴハリマツモと同定されました。果実が見つかった河川には以前からマツモ属植物が生育しているのはわかっていましたが、これまで果実は未発見でした。最近ホテイアオイが駆除されたためか、今年はマツモが特によく茂っており、その中から1本だけ果実付きの茎が見つかったものです。これで、高知県から「確かなゴハリマツモの記録」が得られました。ところが、3本刺の「確かなマツモ」はまだ正式な記録がありません。今後の調査の進展が期待されます。

■ 北川村のヒロハコンロンカ

文・写真：鴻上 泰

長山の生育地

北川村のヒロハコンロンカは、1993年頃に国道493号線長山の電源開発長山発電所へ渡る長山橋の右岸側で数個体が発見され、1995年には村の天然記念物に指定されました。同所では2019年、高知県レッドデータブック改訂のための調査の際に、指定された場所から下流側の道の上下に生育が確認されており、2023年現在も9個体が現存しています。長山では橋を渡った右岸側の変電所に面した斜面にも1個体が見られます。

新たな生育地

2023年6月にモネの庭の浜渦忍氏からの情報を得て、7月4日の調査の際に柏木周辺を調査したところ、高規格道路柏木ICの側道沿いに新たに開花株約50個体を確認しました。この側道は2003年3月開通の高規格道路建設に伴って開設されたそうなので、20年ほどが経過しているものと思われますが、その間の採集記録はありません。

さらに同日、モネの庭の川上裕氏が上流側でも見かけた



写真 3-2 ヒロハコンロンカの花 (2023年7月4日)

との情報を得て調査を行ったところ、上記産地の約3.5 km上流、通称船九艘上の落石防止ネットが張られた法面にも約20個体の開花株を確認しました。

いずれの生育地も森林が伐採もしくは崩落により疎開した場所で、カラスザンショウやクサギ、ムクロジなどと混生しており、ヒロハコンロンカがパイオニア(先駆)的な性格であることを示唆しています。したがってこの植物を維持するためには、周囲がうっぺいしないように疎開させることと、来年に花を着ける部位である花後に伸びてくる新梢を伐らないことが重要だと思われます。

北川村では他に平鍋でも見かけたという情報もあり、さらに広範囲に調査する必要があります。なお、今回の発見および調査にはモネの庭の方々にも多大な協力をいただきましたことを感謝いたします。



写真 3-1 ヒロハコンロンカの様子 (2023年7月4日)

information

■ 令和5(2023)年度下半期 分類学セミナー・研修会などのお知らせ

下半期の分類学セミナー・研修会を下記のとおり開催します。資料準備の関係上、参加ご希望の方は必ず事前にお申込みください。お申込後、集合場所などの詳細をご案内します。セミナーについては、会場までお越しいただくのが難しいときは、オンラインでの受講もできます。

【申込先】
メール：floraofkochi@makino.or.jp
電話番号：088-882-2723(事務局直通)
088-882-2673(標本庫直通)
※土日祝日を除く 9:00-17:00
FAX 番号：088-882-8635(代表)

分類学セミナー（会場・オンライン）

つる植物（初級） 9月16日（土）10:00～12:00 定員：50名

講師：酒井 敦氏〔(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所 育林技術研究グループ長〕
場所：牧野富太郎記念館 本館 映像ホール

イネ科植物（超入門編） 11月18日（土）10:00～12:00 定員：30名

講師：茨木 靖氏（徳島県立博物館 学芸員）
場所：牧野富太郎記念館 本館 映像ホール

初心者のための野外研修会（各回定員10名）

9月30日（土）10:00～12:00 シダ植物（講師：堀清鷹 研究員） 場所：高知市五台山 定員：10名
内容：野外でシダ植物を観察しながら、見分けるポイントを学びます。

10月4日（水）10:00～12:00 水田の植物（講師：細川公子氏） 場所：高知市久礼野 定員：10名
内容：耕作後の水田に生える小さな植物をじっくり観察して、15種類以上覚えることが目標です。

12月9日（土）・16日（土）10:00～12:00 樹木研修会 場所：高知市五台山 定員：10名
内容：植物園内に自生する常緑樹を観察し、30種を覚えることが目標です。

ナルトサワギク防除活動参加者募集

11月20日（月）10:00～12:00

集合場所：芸西村琴ヶ浜 和食川河口臨時駐車場
申込締切：11月13日（月）
定員：30名

※小雨決行・荒天中止
※参加人数によってはウチワサボテン類の除去作業も行ないます

アレチウリ勉強会

特定外来生物アレチウリの防除の事例を紹介します。

9月8日（金）10:00～11:30

場所：四万十町ふるさと未来館 定員：15名

9月9日（土）10:00～11:30 ※オンライン開催あり

場所：牧野富太郎記念館 本館 映像ホール 定員：50名

講師：小林慶子氏〔(国研) 農研機構 西日本農業研究センター主任研究員〕
水口亜樹氏（福井県立大学准教授）
渡邊修氏（信州大学准教授）
武市泰典氏（中国四国地方環境事務所四国事務所野生生物課自然保護官）

*ボランティア登録者ご本人は、窓口でボランティア登録証をご提示いただくと無料で入園できます。

<セミナー・研修会・調査などに参加される際の注意事項>

セミナーや研修会中に写真を撮影します。撮影した画像は牧野植物園の年報及び広報媒体等に掲載させていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

■ 情報提供のお願い

県内でニホンジカの食害によって、絶滅危惧種が影響を受けているところがありましたら、事務局まで種類と場所、地点などの情報提供をお願いいたします。

■ 植物に関する問い合わせ

毎週火曜日（休日の場合はその翌日）に植物研究課の職員が高知県の植物のお問い合わせに対応しています。写真では同定が難しい種類がありますので、押し葉状態（仮押しでも可）にするか、新鮮なうちにお持ちください。

植物に関する全般の問い合わせは、月・水・金の16時から17時まで受付しています(Tel:088-882-2723)。

■ 編集後記

本号では、採集されていた標本によって確認された新産種および長らく不明だった種が確定ができたことについて、山ノ内崇志さん(福島大学)にご執筆いただきました。ありがとうございました。そのほか、北川村での発見など、2種類の植物についてご報告しました。

皆様のご協力により県内の植物の研究は少しずつ進んでいます。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。